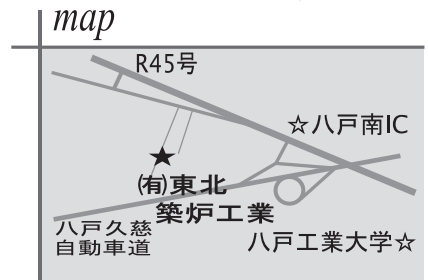


人材を育成し全ての 築炉工法に対応



輝く技術を持つ
当所会員企業



●住所：八戸市妙字大開3-350
●TEL：30-1245/FAX：30-1246

(有)東北築炉工業

※同社が施工した「八戸縄文鍋」（八戸公園内）

製缶を扱うことを目標に

築炉業を営む同社は、現在主流となっている築炉の工法の内、煉瓦^{れんが}工法や型枠工法は勿論、今後主流となりつつある、新たな吹付工法にも対応する等、築炉業分野では、東北でも最先端を行く。

同業界は人材も育ち難いとされる。築炉工の全国の平均年齢は55歳程度。だが、同社は42歳と若く、人材も着々と育ってきている。

顧客満足は無事故 でこそ達成可能

「当社は大きく環境設備部門と工業設備部門とに分かれる。環境部門は清掃工場や火葬炉の設計・施工・メンテ等。工業設備は市内大手工場の炉のメンテや製作等を行う。3K職業とも言われ、一般的に当業界の人材は育ち難いらしい。だが、当社には一級築炉技能士が5名おり、今後主流となるであろう、吹付工法等にも充分対応できる体制にある」

同社代表取締役の坂梨行利氏は、若い人材を育成することにより、新工法採用もスムーズにいくことを強調した。新

工法は、型枠を造る職人や、機械操作に長けた人材の育成が求められるからだ。

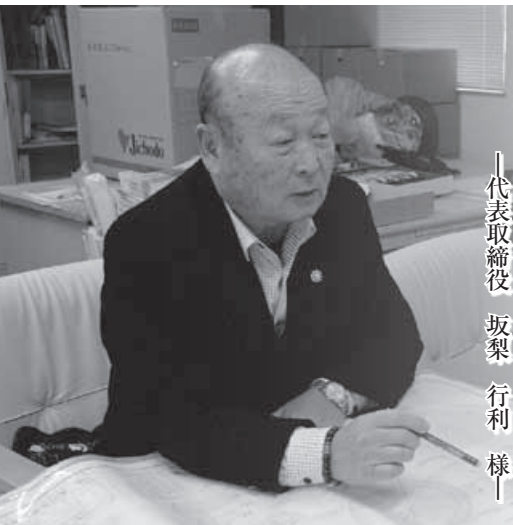
技能教育については、先輩社員
の指導の下、実地で仕事を習得させる方法を採用しているが、怪我も事故も無く事業を遂行させるために月1回、様々な安全教育を実施している。

「顧客要望を満たすのは最低条件。加えて、無事故で怪我も無く完成までもっていくことが大切」

顧客の信頼を得るためにも、無事故で完成させることの重要性を、坂梨社長は説く。

「技能工の育成は大変ですが、人材育成に力を入れれば、会社の将来展望を描くことができます」

代表取締役 坂梨 行利 様



若手育成で新たな 事業戦略を創造

ここ数年は、震災復興の仕事を受注する等、仕事が途切れることは全く無いという。

今後について坂梨社長は「将来的には炉を覆う製缶の構造物を扱う部門ができればと思う。それができれば、缶体製作と内面の耐火物施工との一括受注により県内は勿論、全国でも、相当の競争力を持つ様になるからだ」

「会社の将来のため、若手育成に力を入れると、それが、新たな事業拡大戦略を産む土壌になる」

八戸公園の「八戸縄文鍋」の炉を建設する等、顧客満足を追求し続ける同社。大牟田市（福岡県）出身の坂梨社長の指揮の下で拡大を期す、同社の事業計画の一端を聞くことができた。



最新の築炉工法、吹付工法を行うための機材